

2020年度「多様な場と学びの研究会」
第1回勉強会（全3回）

『“ある働き方”の変容から考える』

2020年10月25日(日) 10:00-12:00
オンライン (zoom)

昨今、新型コロナウイルスの出現により人々の生活様式は変容しました。労働においても、在宅ワーク導入の進展など様々な変更・変動があり、良くも悪くも個人の働き方に影響を及ぼしています。障害者雇用の現場でも同様の現象がみられますが、一般的には気づきにくい側面もあると考えます。しかし、障害者が働きやすい環境を整えることは、多文化共生社会において障害のない方にも有用できる方策であるといえます。そこで、障害のある個人の働き方の変容を事例にして、これからの社会に何が必要かを学び考え視野を広げる機会をもちたいと思います。

今回の勉強会では、新型コロナウイルス以前と現在との働く現場における変容を、2名の障害者の職業経験に基づく見解を基に捉えてみます。そして、参加者の幅広い知見を織り交ぜながら、新たな社会課題への向き合い方を学びます。

講師：

武者 圭 氏 [サウンドスケープデザイナー・UDコンサルタント・翻訳者/津田塾大学非常勤講師]
新堀 隼 氏 [東京海上ビジネスサポート株式会社 (自動車のドライブレコーダー解析業務担当)]

対象：研究会会員、会員紹介者（研究科院生、学部生、一般）

定員：20名（定員になり次第締切）

費用：無料

方法：ZOOM（趣旨説明、講演、フリートーク）によるオンライン勉強会

※ZOOMアプリをインストール済のPCまたはスマートフォンなどが必要です

※録画を予定しています

（録画資料は報告書の作成・広報などに活用させていただく場合がございます）

申込：事前に tayounabatomanabi@gmail.com までメールでお申込みください

※会員紹介者の方は、申込の際、「氏名」「メールアドレス」「紹介者氏名」を明記ください

※申込された方には、後日視聴URL・ID・パスワードをメールにてご連絡いたします

主催：立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科社会デザイン研究所
多様な場と学びの研究会 研究員 石崎・高瀬・長澤